

産地戦略

実施主体 南鹿原グリーン協議会
都道府県 宮城県
対象地域 加美町（小野田地区）
対象品目 水稲

実施期間 令和7～11年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

地区の水田の多くが中山間地でありながら約50a区画での耕作を行っているが、今後、農地維持が課題となるほか、農業者の高齢化に伴い、省力化技術の習得が必要となっている。また、化学肥料を多くの生産者が散布している。については、地域の資源でもある有機物（牛堆肥）の農地へ還元による化学肥料節減栽培と、中干し延長による温室効果ガスの削減、ドローンによる追肥など省力化に資する技術の普及により、高齢者にも取り組みやすい低コスト・省力的で持続可能な稲作を展開していく。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		田植		中干し	出穂	収穫							
技術名		基肥:化学肥料 (N6kg/10a)		追肥(地上):化学肥料 (N1.6kg/10a)									

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		田植		中干し延長	出穂	収穫							
技術名	堆肥散布	化学肥料 (N4.2kg/10a)		追肥(ドローン):化学肥料 (N1.6kg/10a)									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	42	▶ 45	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	5.8	▶ 6	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	5.8	▶ 6	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	5.8	▶ 6	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料を使用	▶ 堆肥を活用した化学肥料の節減	化学肥料由来の窒素量削減
環境	中干し（7日間）	▶ 中干し期間の延長（慣行より1週間程度延）	温室効果ガスの削減
省力	動力背負式散粒機による追肥	▶ ドローン追肥	追肥散布時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状		目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用低減	7.6	▶	5.8	慣行N7.6kg→N5.8kg
省力	ドローンによる追肥	7	▶	1	慣行7分/10a→1分/10a

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

加美町（小野田地区）の稲作生産者を中心に化学肥料の使用量低減や中干し期間の延長による温室効果ガスの排出削減を目指す。また、ドローン追肥による散布時間を削減し、省力化に繋げていく。令和7年度から令和10年度は策定した産地戦略や栽培マニュアルを活用し、グリーンな栽培体系の普及を図る。

関係者の役割

関係者名	南鹿原営農組合	J A 加美よつば	宮城県 (普及組織：大崎農業改良普及セン)	
役割	栽培体系の実践、事業総括	技術支援	技術支援	

その他